



2025 明治安田 J3 リーグ 第 5 節
3/16 (日) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

ツエーゲン金沢

順位表 13/9現在

基本 4 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

注：＊印は消化試合が数字分少ない

1	FC大阪	10p	+3	5	2	A△
2	鹿児島	7p	+4	9	5	
3	宮崎	7p	+2	5	3	
4	福島	7p	0	8	8	A●
5	奈良	7p	0	6	6	
6	栃木C	7p	0	4	4	
1*7	北九州	6p	+3	5	2	HO
8	沼津	6p	+3	4	1	
9	長野	6p	-1	5	6	
10	相模原	6p	-1	4	5	
11	讃岐	5p	0	4	4	
1*12	金沢	4p	0	4	4	
1*13	八戸	4p	0	3	3	H●
14	岐阜	4p	-1	6	7	--- ---
15	高知	4p	-1	3	4	
16	栃木SC	4p	-1	2	3	
17	群馬	4p	-2	6	8	
1*18	松本	2p	-1	2	3	
19	鳥取	2p	-4	1	5	
20	琉球	1p	-3	1	4	

次回HomeGame

ルヴァン杯1回戦 vs.横浜FC

3/20 (木・祝) 14:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日：日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ

イン



JR
岐阜駅

通算対戦成績 全13試合（J2:10試合、J3:2試合、天皇杯:1試合）
岐阜4勝 / 金沢6勝 / 3分け Jリーグ岐阜ホーム戦：2勝0分4敗

直近の対戦結果 2024/09/28 岐阜 1-0 金沢 得点者：寺阪尚悟
J3 - 30節 @長良川

ここ
3 試合の
公式戦の
結果

岐阜

2025/03/08 J3 - 04節 @とうスタ
福島 4-3 岐阜
2025/03/01 J3 - 03節 @長良川
岐阜 2-1 北九州
2025/02/23 J3 - 02節 @長良川
岐阜 0-1 八戸

金沢

2025/03/09 J3 - 04節 @ゴースタ
金沢 1-2 高知
2025/03/02 J3 - 03節 @ピカスタ
讃岐 1-1 金沢
2025/02/23 J3 - 02節 @白波スタ
鹿児島 1-2 金沢

●開幕から激しい順位争いを見せる、2025 シーズンの J 3 リーグ。3/1 (土) 第 3 節・ホーム北九州戦は、八戸戦の敗戦からメンバーを変更して臨む FC 岐阜。前半には先制点を許してしまうものの、後半 5 分に #55 外山凌のゴールで同点に追いつくと、後半 13 分に #16 西谷亮が逆転ゴール。その後、守勢に回る時間が続いたものの、同点に追いつかれることなく粘り強く守り切り、2-1 で今季初勝利、そして今季初の逆転勝利を掴み取った。続く 3/8 (土) 第 4 節・アウェイ福島戦は、試合の序盤から中盤での激しい攻防が続く。しかし、相手のわずかな隙を突いて前半 29 分に #10 北龍磨が先制点を挙げると、前半 37 分にも #10 北がゴールを決め、前半は 2 点差をつけて折り返す。だが、後半 14 分からわずか 5 分の間に 3 失点して逆転され、さらに追加点を許してしまう。後半 45 分に #24 栗飯原尚平の得点で 1 点差に詰め寄るが、反撃はそこまで。結局は 3-4 という、非常に苦しい敗戦となってしまった。

この 2 試合の結果、FC 岐阜の順位は 15 位から 14 位に。まだ、シーズン全 38 試合中の 4 試合なので焦る必要はないし、大島新監督の指揮下での実戦経験が不足していることも大きな要因だと思われるが、悠長に構えていると、昨季の終盤のように『あと少しで届かない』という結末になりかねない。早急にチームを改善する姿勢が必要だ。リーグ全体を見てみると、まだ試合数が 1 試合少ないチームが 4 つあるので分析が難しいが、4 節を経過して 4 連勝のチームも 4 連敗のチームもなく、現時点では各チームの戦力バランスが拮抗していると言えるだろう。今のうちにチーム全体の底上げを図り、上位に進出することを望みたい。そして、上位に行くためには、連敗しないことが本当に重要だ。

さて、今節の対戦相手はツエーゲン金沢だ。昨季は 1 年での J 2 復帰を目指し、シーズン途中まではプレーオフ圏内を維持していたが、終盤に失速して、最終順位は 12 位に。今季は伊藤彰監督 2 年目体制で、主力選手の多くが残留して開幕を迎えた。金沢は 4/27 (日) に八戸との第 1 節が予定されており、消化試合が 1 試合少ない状況にあるため、他チームの成績と単純な比較はできないが、現在は 12 位。前節には J 初参入の高知に初勝利を与えており、岐阜と同様、強い危機感をもってこの試合に臨んでくるだろう。

金沢とのリーグ戦での通算対戦成績は、2019 年からの J 2 では岐阜の 2 勝 2 分 6 敗・8 得点 14 失点。昨季の J 3 では、1 勝 1 分・1 得点無失点。昨季の 4/28 (日) 第 11 節・アウェイ戦は 0-0。9/28 (土) 第 30 節・ホーム戦は、前半の C K から #37 寺阪尚悟のヘッドで奪った先制点が決勝点となり、1-0 で 4 試合ぶりの勝利。昨季終盤のチーム V 字回復のきっかけとなった試合だった。今節も、チーム復調のきっかけとなる試合となる結果を見届けたいところだ。

金沢で最も警戒すべき選手は、やはり #10 パトリックだろう。2013 年以来、数々の J 1 クラブを渡り歩いた 37 歳のブラジル人 F W は、J 1 通算 328 試合出場・101 得点。今季から J 3 に舞台を移しているが、既に 2 ゴールを挙げている。また、#20 長倉颯は 2019 年に岐阜で J リーガーになり、仙台 (2021 年)、ラインメール青森 (2022 年～: JFL) を経て、今季再び J リーグに戻ってきた選手だ。そして、今季から金沢のコーチに就任した天野賢一氏は、2023 年から岐阜のヘッドコーチを勤め、昨季途中からは監督として指揮を執った指導者だ。岐阜の選手の多くが天野氏の指導を受けており、その意味では難しい試合になるだろう。一方で、岐阜の選手たちにとっては、普段以上に負けたくない相手でもあり、その気持ちの方が勝ることを期待したい。

チームとして、まだまだ課題が山積している今季の岐阜。若い選手も多く、迷いもあるだろうが、チャレンジして改善してゆくしか方法はない。そんなチームや選手たちの背中を押して、一歩前に踏み出させるために、僕ら岐阜サポーターの拍手や声援があるはずだ。今節も、タオマフやゲーフラ、フラッグなどでスタジアムを緑に染めて、最後まで選手たちを鼓舞しよう。そして今節は、試合終了の笛と共に、再び選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” をこのホーム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第3節】岐阜 2-1 北九州

●まずは今シーズン初勝利を挙げられた事に安堵。山田直輝と荒木大吾がメンバー外という事態に、これは苦戦は避けられないと思ったものだが。

だが代わりに初スタメンの中村仁郎がいい仕事をしてくれた。2点とも彼の良いクロスから。1点目の外山凌の積極的な上がりも好結果を産んだと言える。クロスボールをピタリと合わせた決勝ゴールの西谷亮、彼も今年は期するものがあることだろう。

あと北龍磨、萩野滉大のボランチコンビはやはり安定して見ていられるなど。リードした展開で、長井結矢とオイウエ・ウィリアムの若い2人を同時に投入するなど、大島監督もなかなか思い切った手を打つものだったと思ったものだが。

まだチーム状態はベストとは言えないだろうが、目の前の試合をひとつひとつ大事に戦っていくことが重要であることは間違いない。(岐阜の誇り)

●FC 岐阜、3/1 にギラヴァンツ北九州と戦いました。

北九州は、なぜか開幕戦は第2節からになったのですが、その対戦相手だったAC長野パルセイロに2-0で勝利。キャスティングボートを終始握っての快勝だったとのこと。某サッカーまとめブログの北九州サポのコメントによると、増本浩平監督のチームのデキは6割ほどだそうで。これで6割なら、ウチとの対戦の時には何割で挑んでくるのかしら……とガクブルもので試合の日を迎えました。だって、これまででも5勝しかしてないし、J3での対戦は未だに勝っていないんだもの。ましてや増本監督。そりゃ震えて待つわな(爆)。

連勝の掛かった北九州と初勝利を狙う岐阜との一戦は、また1試合のハンデがあるのに、動きの悪い岐阜が北九州に押し込まれる展開になっていました。この日は、山田直輝選手と荒木大吾選手がスタメンからもサブメンからも外れているのよね。何かあったのかという思いもあったのですが、もしかしたら外してみて試合が組み立てられるのかを見ていたのかも。

その策は前半に関しては実らず、北九州に先制点を取られます。先程も書きましたが、動きが悪い。特に距離感の掴めていない選手が何人かいて、パスを回した時に回したい相手に届いていないため、敵に奪われるというシーンが散見されました。ちゃんと試合前練習の時にピッチコンディションを確認しているのかと疑いたくなるくらい。ちゃんと詰めていない・連携できないのも気になりました。その中で一人気を吐いていたのが、この日初スタメンだった中村仁郎選手。スタメンに出る気持ちを持ってシーズン前から挑んでいた中でも結果(これまで2試合)はサブメンだったので悔しいと漏らしていたので、懸ける思いはあったと思います。実際に熱い想いを一番に感じられました。

その想いが通じたのか、後半から岐阜は息を吹き返します。パスが繋がるようになってきたからです。後半05分、萩野滉大選手の左へ展開した球を前に上がって来ていた外山凌選手がスルー。その先にいた泉澤仁選手が受け取り、ペナルティエリアに蹴り込んだものの、相手の選手に受け取られてしまいます。しかし、相手のパス回しのミスの中村選手が見逃さず、苦しみながらも身体で受け止めたものの、誰もいないところに転がしてしまった……と思ったら、そこにさっきスルーして前に上がっていた外山選手がスルスルっと入ってきた！鋭く蹴り出した球は相手キーパーをかわしてゴールマウスの中に吸い込まれていきました。今シーズンのホーム初得点は、劇的なものとなりました。

この勢いを大事にしてきた岐阜は、後半13分、再びチャンスを作ります。野澤陸選手の蹴り出したロングボールが中村選手に回り、相手陣営を翻弄しながらペナルティエリア中央に蹴り込むと、西谷亮選手がボレー気味に食い込んできた！蹴られた球は、キーパーの左側をすり抜けて、ゴールマウスの中へ。再び劇的なものになった1点は、勝利を呼び込む逆転

弾となりました。その後は、守勢に回るシーンが増えるものの、守備陣の奮闘などで乗り切って、試合終了。2-1で逃げ切りしました。

この日の試合のMOM(Man Of The Match)は西谷選手なんでしょうけど、個人的にはMOMは2アシストの中村選手だと思います。途中交代まで全力で挑んでいた中、展開力・推進力・突破力を存分に見せてくれました。相手を翻弄するドリブルとボール捌き。そして見事なクロスは、まるで若い頃、ウチにいた頃の田中パウロ淳一選手の再来なのかと思ってしまったほど。それだけオーバーラップするものが、この日の試合にはありました。奇しくも右ウィングというポジションまで一緒。今年パウロ選手は栃木シティFCに在籍しているので、もしかすると2人のマッチアップが見られるかもしれませんがなぁ……。あとはシュートが決まれば完璧なんでしょうけど、さぁどうなるのかな。

何とか今シーズン初勝利を掴み、次の相手は、アウェイで挑む福島ユナイテッドFC。順位も岐阜10位・福島11位と6ポイントマッチに。福島とのアウェー戦の連勝記録が昨年で途絶えただけに、再びアウェー福島戦連勝の記録を作る礎に、そしてFC岐阜が連勝するための足掛かりにしたいところ。3月初戦になった北九州に勝ったのですから、3月は快進撃の月にしていきたいものです。(アレックス)

●八戸戦で負けて、スタメンを変えてきた岐阜。#15 山田直輝がベンチ外なのは怪我なのかしら？ともかく、少しずつでもチームを改善しようとする意図が明確な、大島監督の采配は僕らサポにも分かりやすくて助かります。さて、試合は序盤から岐阜が押す場面が多く見られるものの、その押し込んだ敵陣からロングカウンターを浴びて、先制点を許してしまう。ドリブルでスライドしてきた相手を捕まえきれず、しかも味方同士で交錯した隙を突かれ、非常にもったいない失点でした。まだ守備の約束事が浸透していないのだと思うけど、チーム全体で反省してほしいものです。シュート数では北九州を上回りながら、0-1で前半を折り返す岐阜。八戸戦でも攻勢をかけながら無得点に終わったので、僕は不安を感じていたんだけど、今節は違った。再び相手のゴール前での混戦で、#7 中村仁郎がボールを拾うとショートパス。その空白地帯に#55 外山凌が走り込んで、同点ゴール！あの位置で、あのスペースを見つけてる#7 仁郎も凄いけど、あの位置にSBの#55 外山が張ってるというのも、僕的には凄いなと(苦笑)。そして、ゴールが生まれて動きがよくなった岐阜は、後半13分に、#7 仁郎のクロスをも#11 佐々木快が頭ですらし、ゴール角に走り込んだ#16 西谷亮が合わせて逆転ゴール！そして、#16 西谷のさらに奥には再び#55 外山が走り込んで。完全にデザインされた攻撃なんだなあと感心する一方、こんなに攻撃的でいいのかしらと僕は少し不安になりました(笑)。と、ここまでは良かったのだけど、この後は少しだけない。そのまま押し込んで、できれば追加点を挙げて北九州にトドメを刺すべきなんだけど、今季初勝利が見えたこともあり、相手を受けてしまう時間帯が長くなってしまったと思う。それと、追加点のチャンスで決めきれない場面も。ハラハラしながら、残り時間はゆっくりと過ぎてゆき、何とか踏ん張って守り切り、ようやく試合終了。今季の初勝利、初のホーム勝利、そして初の逆転勝利。そのことは素直に喜びたいけれど、まだまだ改善点は多いように見えた。もちろん、勝った上で改善点が判明するのは、リーグ序盤には望ましいことだ。今後も改善点を修正しながら、勝利を積み上げて欲しいものです。

あと、暖かい天候での試合で、せっかくの逆転勝利だったけれど、開催日が年度末の3/1(土)で卒業式などのイベントとかぶってしまい、観客は3000人台。サンクスマッチもホームタウンデーも無い試合というのは、仕方ないとはいえ、ちょっと勿体なかったかなあと(苦笑)。(ささたく)

●試合前に持株会。当初は TM・三重戦のキックオフ前にやる予定が延期になってようやく。かつてないような、ハナっからテンションぶち上げな発言があって、ボクのカラダはヒートアップ。いや、株主総会っぽくてイイじゃないか。株主総会なんて出たコトないから知らんけど（笑）。

で、肝心の試合は北九州が終始優勢に見えた。よく勝ったよね。前の 2 試合よりチャンスは作れてる。ただ、シュートまでいけんなあ……と思ってたところに、そこまで行く機会の多かった北 Q が先制。鮮やかなカウンターに見事なシュートでした。幸いなコトに、前半は 1 点のビハインドで終わり。やっぱり、永井龍はさすがだねえ。

でも、ウチも前線がイイ意味で軽かった。なんというか、停滞感がほとんどない。やっぱり、ジローくんはイイね。トップ下のリョウや龍磨との関係もイイ感じ。そんな感じが後半も続き、今季の長良川初ゴールは外山。まさに、大外からのシュート！ボクの位置からは「オフサイド？」と心配したけどセーフでよかった。逆転弾も似たような展開。右側から左奥目にいたりリョウが上手く合わせたゴール。いや、ホント、いい雰囲気だったよね。

問題はジローくんとかが下がった後。うーん、やっぱり、ウィリーと長井クンを同時に使うのはリスクかも？ボールが前で落ち着かないから、気が気じゃなかったよ。それとさ、アレはなんとしてでもワクに入れて欲しかったなあ〜。枠に入れてたらたまたま決まってたよ？ウィリーくん（苦笑）。

とはいえ、待望の今季初勝利。ホッとした。でもねえ、アノ『万歳四唱』は……。初めての選手もいるからしょうがないけど、ソレは毎年のコトだからねえ。次は、というか、今夜はピシッと決めましょう！楽しみだね。（ぐん、）

●山田直輝がスタメンからいなくなったことで「前線が軽くなった」のは事実。システムは 4-4-1-1 風でトップ下が西谷、彼は基本は中盤のコなんでボールが来ないと下がりがるんだけど、その時はリョーマが前に張ってたんで問題なく機能してた。

この日の MoM は仁郎だろうなあ。いまの岐阜の攻撃が一番活性化する感じに見える。あとは左 S B の外山。ゴールエリア付近まで仕掛けていく S B って大好き！（笑）。問題は、サブメンバー。長井もウィリアムも、経験が足りないのか、どうしても戦力ダウンの印象がしてしまう。リードしての試合終盤で『シュールなロマン・サッカーのリアルな勝ち点喪失』（萩尾望都にそんなようなタイトルのマンガありましたね）を見せられるのは、精神的にあまりいいものではない。もちろん、ウィリアムはアレを決めていれば『男』になれたのかもしれないが（苦笑）。

「勝っただけ」の勝利でもないし、初勝利がホーム戦だったのはいいことだし、でも「これでアゲアゲ連勝だっ！」という気持ちまでにはならなかったですね。（吉田铸造）

【第 4 節】 福島 4-3 岐阜

●3/8、福島県福島市にあるとうほう・みんなのスタジアムで福島ユナイテッド FC と戦いました。

福島駅東口から数時間に 1 本あるかどうかの怪しいダイヤのバス（しかも福島駅東口行きが 19 時に最終（汗））に揺られ、福島の公式がアナウンスするあづま総合体育館のバス停よりもその次にあるあづま陸上競技場のバス停で下車するのが近いことを知っている手練れのウチのサポ（苦笑）が見られると思ったら、福島駅西口からシャトルバスだと！しかも福島県がバス無料デーを実施してくれるだと（普段は往復 1300 円以上掛かる）！おかしい、何かがおかしいと思いながら、試合を迎えました。

前半は、福島に押し込まれる展開になりながらも、北龍磨選手の得点をきっかけに、徐々にいい流れの中で終わりました。しかし、皆忘れていたのだろう。『2-0 は危険なスコア』というサッカー界の格言を。後半に入って、後半 14 分～後半 26 分の 12 分間で 4 失点……（泣）。これは守備がザルというより、濾し器としての機能を果たしてないレベルだべ……（汗）。最終盤に栗飯原尚平選手のシュートで追いついたけど、4 失点後に迎えた西谷亮選手のシュートがクロスバーを叩いた時点で、ウチの勝ちは厳しかったのかなあ。結果、4-3 で逆転負け。しかも状況違えど昨年のここでの試合と同じスコア（あまつさえスコアを決められた相手・決められた選手が入れた点数・主審まで一緒というオマケ付（爆））。2023 年まで負け無しでゼンのいいスタジアムだったはずのとうほう・みんなのスタジアムが一転、去年・今年と負けたことで、白河の関のような鬼門になってしまうのではないかという不安さえ感じたほどです。

守備が全てだったのかねえ。ただ引きましたという中途半端な引き方になっていなかったか？監督の指示で引きましたとなっていなかったか？そこが反省点かなと思います。引くべきところでちゃんと引く。引くと決めたら積極的にラインを引くかのように守備を固める。かつてウチで指揮した北野誠元監督が得意としていた塹壕戦のような決意ある堅い守備を仕掛けてもよかったんじゃないのかなとも。

新しいチームだから仕方ないとはいえ、ハネムーン・イズ・オーバーの時も近い。人々の期待が絶望に変わる前に、監督・スタッフ・選手達はこの日の試合展開に対して猛省して、ツエーゲン金沢との白山ダービーで何らかの結論を導き出せないと、2022 年の悪夢再来か、2019 年の悲劇以上のものを見せられるのかもしれない気がします。（アレックス）

●連勝を達成しようと、福島の地に乗り込んだ岐阜。けど、この試合がホーム開幕戦、そして 3.11 の黙祷もあった試合で、福島の選手たちは相当に気持ちが入っていたことだろう。なにより、寺田周平監督の 2 年目で“積み上げ”のあるチーム、選手同士の問合いや連動性が、残念ながら岐阜とは違っていたと思う。なかなかボールが繋がらない岐阜は、シンプルに縦へボールを運んでいたように思うけれど、前線でボールが収まらず、すぐ相手のターンになる場面も多かった。それでも、徐々に自分たちの形で相手のゴール前に顔を出せるようになると、前半 29 分、敵陣でボールを奪い、後方から #10 北龍磨が相手ゴール前に侵入、流し込んだシュートで先制点！これで気持ちが乗った岐阜の選手たち、前半 37 分に #11 佐々木快のポストに再び #10 北が流し込んで 2 点目！このまま前半は 2 点差をつけて終了。これは連勝いけるかも……と思ってしまったのが駄目だったのか、あるいは“2 点差は危険なスコア”の格言どおりと言うべきか。きっかけは、後半 4 分と、早い時間帯に #23 萩野滉大がイエローを貰ってしまったことだと思う。前半に相手ボールになる笛が非常に多く吹かれていたこともあり、守備での“潰し役”を務めていた #23 萩野のデュエルが鈍ってしまった。それで選手間に間延びが生まれてしまった。それと、大島監督は、選手の利き足がピッチの内側にある“逆足”の位置を好んで起用していると思う。

それはカットインの時や中央に攻撃の人数をかけられるという点では有利なんだけど、逆に相手にサイド攻撃をされた際のケアなんかに問題がある。そこを、福島に徹底的に突かれてしまった。後半 14 分に（かつて岐阜に在籍していた）# 40 樋口寛規にゴールを決められると、わずか 5 分の間に合計 3 失点してしまい、あっさりと逆転されてしまう。ここでようやく岐阜は選手交代して対策を図るけれど、時既に遅し。後半 26 分に 4 点目を決められてしまう。まあ……これまででも、5 分間で 4 点取ったこともあるし、残り 6 分で 3 点差をひっくり返されたこともある（溜息）ので、珍しい経験ではないとも言えるけれど……わずかなバランスの変化が決定的な差になってしまう、サッカーの恐ろしさを再び痛感することになってしまった。その後も選手交代で局面を開きしようとする岐阜。# 16 西谷亮のシュートがクロスバーに当たるなど惜しいシーンもあったが、# 24 栗飯原尚平による 3 点目が獲れたのは、後半 45 分。同点に迫いつくべく攻勢をかけた岐阜だけど、そのまま 3－4 で試合終了。あらためて、90 分間トータルで勝敗を決するサッカーの難しさや怖さを痛感する、本当に悔しい結果になってしまった。そして、昨季もアウェイ福島戦は 3－4 で負けて、しかも得点者まで同じで（溜息）。ともかく、出てしまった課題を解消してゆくしか方法はない。とりあえず、前線での連動性というか、セカンドボールが拾えていないところを解消することが重要なんじゃないかと、個人的には思っている。（ささたく）

●悩んだ末の DAZN 観戦。こんなコトなら行けばよかった……と思うんだけど、それはまあ、しょうがない。「手痛い敗戦」とまでは思わないけど、こういう試合を勝てたら『デカイぞっ！』と言えたんじゃないかな？ 惜しかったね。それでも、J リーグの歴史には、「5 分で 4 点！満塁ホームランか！！」なんてクラブもあれば、後半残り 8 分から 3 点差をひっくり返されるクラブもあるワケで。だから、2 点差を 10 分ちょいで 4 点取られて逆転されるクラブがあったっておかしく……。え？ 全部、同じクラブだって？ いや、まあ、そういう自虐ネタはさておき、だ。ひっくり返されて、さらにダメ押し的な追加点を取られた後は「とにかく、1 点取れ！」と画面に向かって叫んでたから、1 点差に詰め寄ってくれたのは嬉しかったし、西谷クンのボス直もあったから、何とかそれなりの形作りは……って流されそうにもなるけどさ。ソレで負けた事実が変わるワケじゃない。ゲーム・マネジメント、どうなっとるん？ 特にコーダイが黄紙もらった後は、いっきに強度が落ちたような気がする。ボクだけかな？ それにしても、いくらなんでも、あれだけ、なし崩し、いっきに奈落の底落ちしちゃうのはどうなんだ？ もちろん、前半をリードして折り返しても左団扇とは到底考えてなかったよ。DAZN のスタッツにも出てたけど、ポゼッションは 39% で、全般的には福島優勢。もちろん、「ポゼッションなんかには何の意味もない。」ってコトはよ～く身に染みているんで、「こういう展開で勝つのが華よ。」なんて期待もあった。枠内シュート 2 本で 2 点だもんね。それも 3 列め……とも言い難いが、低めの位置から上がって行った龍磨が 2 点。しかも流れの中で、っていうのはね、よかったと思うよ。とりあえず、福島には寺田さん 2 年め、選手もほぼ変わらず……と言ったアドバンテージ、積み上げがあったんだ。その差が出たんだ……と思っておく。ウチもそうなるといいな。出来れば、この夏くらいまでには、ね。そしたら、もしかすると、ひょっとする……かもよ？（ぐん、）

●DAZN で観戦。前半を 2-0 で終えたところで精神的に「よし勝ったな、風呂でも（略）」モードになったので、試合終盤から「どうなってんだこれは」になってしまった。アウェー戦で前半に同じ選手が 2 ゴール挙げても、3 ゴール挙げなければ大丈夫……なんじゃなかったのか？（苦笑）現地組の感想では、前の北九州戦でイケイケだった仁郎のところから仕掛けられた、らしい。サッカーは 90 分の競技だから、前半が 0-2 でも「相手の弱点はここだ、ここを突いて行

くぞ」で仕掛けてひっくり返せば、前半のビハインドはどうでもいい。以前、某 JFL チーム（岐阜じゃないよ）の忘年会で選手と言葉を交わす機会があった時、彼は「先制点なんかいらぬ。前半は 0-1 でもいいくらい。修正して、後半に 2 点を獲ればいい」とキッパリ言っていたっけ。それが、この福島戦では 0-2 にっただけ。福島は昨年の J2 昇格プレーオフに出ていた「強いチーム」だということを忘れてはいけない。戦力の大幅ダウンもなく、さらにチーム力向上の立役者といっいていい監督は継続。弱くなる要因が見当たらないよね。一方の岐阜。既に監督交代論がネットで散見されるのは残念な限りだ。開幕戦と比較して「何が出来て何が出来ていないのか」の判断は比較的早い方だ、とぼくは視ている。ただ、前出の福島・寺田監督と比べて考えると、J3 においてのいい監督というのは「いずれいい結果が出る監督」ではなく「すぐにいい結果が出て、いずれさらにいい結果が出る監督」なのかなあ、と思ってしまう。ダメ出しには早いと思うけど、ちょっと焦ってしまうところはあるよね。（吉田鑄造）